

第88回宇宙政策委員会・第11回基本政策部会 議事要旨

1. 日時

令和2年6月2日（火） 14:00～15:00

2. 場所

中央合同庁舎第8号館1階 講堂

3. 出席者

(1) 委員

・宇宙政策委員会

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、遠藤委員、折木委員、後藤委員、中須賀委員、山崎委員

・基本政策部会

中須賀部会長、松井部会長代理、青木委員、石田委員、片岡委員、白坂委員、角南委員、常田委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 松尾事務局長、吉田参事官、川口参事官、中里参事官、鈴木参事官、滝澤参事官

(3) オブザーバ

平内閣府副大臣、今井内閣府大臣政務官、和泉内閣総理大臣補佐官、山川 JAXA 理事長

4. 議事要旨（○：質問・意見等 ●：回答）

(1) 宇宙基本計画（案）及び宇宙基本計画工程表（案）について

資料1、資料2、資料3に基づき、パブリックコメント等を踏まえた「宇宙基本計画（案）」の修正案及び「宇宙基本計画工程表（案）」について事務局からの説明があり、以下の質問と意見があった。これらの案について、宇宙政策委員会として了承された。

○委員より、「アルテミス計画参画においては、国際交渉や予算など様々な条件はあるものの、日本人宇宙飛行士の月面での活躍の機会の確保を目指す、という認識でよいか」という質問があった。

●事務局から「そのとおりである」との回答があった。

○この点に関して、委員より、「その際には、政府を挙げて、しっかりと予算を確保していく必要がある」との意見があった。

また、基本計画の実行に向けた今後の取組について、委員より以下の意見があった。

○資料4に基づき、コロナ後の社会を見据えて、宇宙がより一層SDGsへの貢献を果たしていくための取組について説明があった。

○コロナ後の状況を踏まえ、事実を把握するための情報がより一層重要となっている。宇宙のモニタリング機能など、宇宙の果たせる役割が大きい。

- 技術の進化のスピードが桁違いであり、計画の実行を加速する必要がある。
- ポストコロナの社会を見据え、攻める部分を見極めてスピード感もって取り組む必要がある。
- アジア・パシフィックをしっかりと取り込んでいく視点が重要である。そのためには、ビジネス面だけでなく、外交面も含めた取組が重要である。
- 天文学について、学問としての側面のみならず、実学の側面も含めて活性化していくことが必要である。
- 民の取組も重要であるが、官の取組も重要である。現下の安全保障を巡る国際情勢を踏まえ、しっかり宇宙に予算を確保することが必要である。
- 投入した予算がしっかり波及効果を生み出すよう、成長戦略や防災など他分野との連携をしっかりと進めていく必要がある。
- 未来の文明に対して、宇宙がどのような役割を果たしていくか、長期的な視点で引き続き議論していく必要がある。
- 今後の計画の実行においては、変化と継続性の両立が必要である。

以上